



軍備大拡大ストップ

平和でも、暮らしでも

希望がもてる政治を、地方から！

日本共産党大島町委員会・町議団

2023年町議選政策を発表

(日本共産党大島町委員会の政策を紹介します。)

第668号
 「島のひろば」編集委員会 電話04992-2-8256・
 Eメール・jcposhima@yahoo.co.jp
 www3.plala.or.jp/jcposhima/
 検索サイトからはJCPOSHIMA
 くらしの相談は共産党町議団へ
 山田2-3670 橋本2-3614 小池2-931

この大島を、だれもが大切にされ、
 安心して住み続けられる町に

町政にのぞむ基本方針

- 1、子どもたちも、若者もお年よりも、だれもが大切にされ、安心して暮らせる町づくりをめざします。
- 2、島民の暮らしと平和を守るために、国や東京都の良くない政治に対しては、「防波堤」の役割を果たします。
- 3、「住民が主人公・住民参加の町づくり」住民自治の精神を生かしていきます。

重点政策

1 命と健康を守るために

アンケートで一番多かったのは、島外受診のための交通費・宿泊費支援の拡充でした。都・国が事業を制度化し、付添いも対象にすることをはじめ、6項目の声をとりあげました。



二人で毎月島外受診。宿泊費や交通費が大変。節約も限界です。

電気代が大変でコタツも使わず、毛布で暖をとっているんですよ。



2 高物価・コロナ危機から島民の暮らしを守る

消費税を5%に減税を。離島振興法の趣旨をいかして船賃や水道料など公共料金負担を軽減すること、都が実施している貨物運賃補助の対象品目を広げ、国としても制度化することなど、5項目。

3 ゆきとどいた教育・文化の町を

「児童は人として尊ばれる」(児童憲章)の立場から、集団になじめない子どもへの介助員の派遣、発達障がいによる大変さをかかえた子どもへの幼児段階からの支援制度充実、歴史・文化など社会教育の充実などをかかげました。



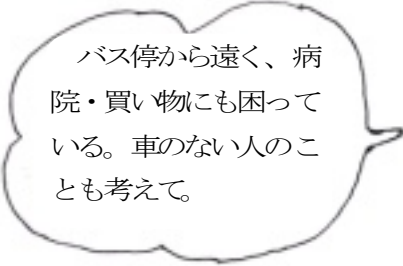
4 農林漁業を土台に、観光・産業の再生を

島内でお金が廻る循環経済をめざした産業振興を基本に、アンケートでも「このままでは大島は沈む」と農・漁業などの後継者育成対策の声が多くよせられました。この問題をトップにとりあげ、耕作地提供、漁船購入補助、低家賃住宅の提供、生活保障など政策化しました。この分野は8項目にまとめました。

日本共産党大島町委員会と党町議団は1月12日、4月実施の町議選政策を発表しました。政策は、共産党町議団が実施した町民アンケート(200余の回答)に寄せられた切実な声を中心にまとめました。その骨子を紹介いたします。

5 お年寄り・障がい者にやさしい町を

「移動困難者が必要なときに利用できる交通手段の確保」問題も特に高齢者の方から多く寄せられました。「住民参加で検討」し、実現めざします。また、障害者への移動支援（福祉タクシー券支給など）を行うなど、5項目をかかげました。

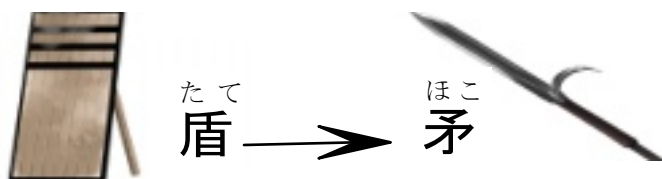


バス停から遠く、病院・買い物にも困っている。車のない人のことも考えて。



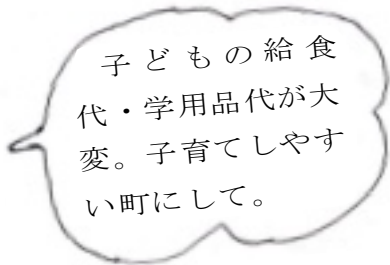
7 自然と調和したやさしい町づくり

「脱炭素社会の実現をめざし、大島における再生エネルギー利用の調査・研究をすすめる」ことを新たにかかげました。また、東京都と連携してゴミの減量化を住民参加ですすめるなど、7項目にまとめました。



***盾 = 専守防衛を投げ捨て、**
***矛 = 軍備増強の岸田政権サヨウナラ**
***「大軍拡・大增税反対」署名にご協力ください**

6 若者が子育てしやすい町に



子どもの給食代・学用品代が大変。子育てしやすい町にして。

学校給食費を無料化。当面半額化。教育費保護者負担を軽減。国民健康保険税の均等割を中学生以下非課税にするなど、子育て応援政策を7項目にまとめました。

8 平和憲法を生かした町政を

町政でも、憲法92条の「地方自治の本旨」である「住民自治」「団体自治」（町の独立性）を生かし、主な施策は計画段階から住民参加ですすめる、戦後、「独立大島憲法」を制定し、「万邦和平（世界平和）の一端を担う」と明記した先人たちの思いを受け継ぎ、「核廃絶・平和の町宣言」の制定をめざすなど4項目。

税金は軍備倍増にではなく、離島振興倍増に

コロナ危機、物価高、そして少子高齢化。離島という条件も加わって私たちは大変な状況におかれています。今、必要なのは、「ミサイルより福祉増進」の政治です。離島住民のいのちと暮らしを守る手厚い支援に税金を使わせましょう。

大島文学・紀行散策

拾遺編

耕平逍遥

— 童話・書簡・日記を読む

四

時

5 得

3 孝

4 良

「椿咲く島」

《大島に椿の木がたくさんあるのは、そして女の髪の毛のうるわしいのは、昔こういういわれがあるそうです。気持ちのよい話ではありませんか。》と結んだ大島の椿。「たくさんある」椿の本数は、島内に3百万本もあるとよく耳にする。

5本あり、大島全体の面積のうち、椿の生育しているのはおよそ60平方キロメートルとして、5本×60平方キロ÷10000=3000万本と推定されたとのこと。夏が終わる頃、庭いっぱいむしろにむしろ椿の実を干す風景が良く見られたものだった。今は、文字通り「ヤブ」椿になっていて椿島の先が思いやられる。

「大島の植物博士」吉田三喜男先生に生前その根拠をお聞きしたことがあった。

「ヤブ」椿になっていて椿島の先が思いやられる。

薄ら覚えでまちがいもあるかもしれないが、三喜男先生によれば、1980年代、大島公園の職員だった倉本宣さんが統計的にはじき出した数だとのことだった。

倉本さんは、公園近くの椿は、100平方メートル当り

「力ちから嘶はなし」さて、二番目に紹介するのは「力嘶」という題名の作品である。主人公は実在の「伝吉」。《明治年間のこと、伊豆大島岡田村に、伝吉という漁師がありました。まだ若い血気さかりの頃、ふと何かから思いついたものか、こういって神様に願かけをしました。》

(以下次号)